



編集・発行

大阪府立

呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1

TEL: 072-957-2121

FAX: 072-958-3291

HP: <http://www.ra.opho.jp>

E-mail: kokyucen@ra.opho.jp



オリンピックのち花粉症

院長 かわせ いちろう 川瀬 一郎

皆さん、いかがお過ごしですか。大いに感動を与えてくれた冬季のオリンピック、パラリンピックも過ぎ、再び花粉症に悩む季節がやってきました。

オリンピックでは、レジェンド葛西さんの見事なジャンプや浅田真央さんの会心の演技が日本人のみならず世界中の人々に感動を与えました。かつて伊藤みどりさんがかたくなに3回転半トリプルアクセルにこだわり、ついにオリンピックという大舞台で世界で初めて成功させましたが、このように日本人はしばしば結果よりも「こだわり」を大事にするということを今回改めて世界に示したわけです。浅田真央さんがオリンピック金メダルの呪縛から解放されてようやく実力をいかんなく発揮しトリプルアクセルをはじめ8回のジャンプに世界で初めて成功したその姿は日本人なら涙なくして見られなかったし、ロボットのようにいつも能力を100パーセント発揮できるメダル選手よりもずっと心に残るのではないのでしょうか。

一方、パラリンピックでも日本人の活躍が光りました。メダル数こそ前回の11個から6個に半減しましたが、チェアスキー滑降では悪い雪質のため他国が安全策を取るなか日本チームはみんな時速100キロを超えるスピードで果敢に滑り降り、転倒したら次の人に情報を与えそれを参考にしてついに狩野さんが金メダルを獲得したわけです。座位なのに猛スピードで滑り降りていくその度胸に、私はびっくりしました。普段の練習は大変だろうと思います。何回こけても立ち上がる不屈の精神とそれを支える周囲のたゆまぬ努力には、大いに頭が下がります。

さて、今年も花粉が多いそうで、アレルギー性鼻炎や結膜炎をお持ちの方はマスクや点眼薬が手放せません。私もいたるところでくしゃみと目のかゆみにさいなまれています。さらに中国大陸では微粒子PM2.5が減る気配なしとか。

どうぞ皆さん、インフルエンザの季節が過ぎてもしっかりマスクをして、このつらい春を乗り切りましょう。

鼻出血の正しい対処法

耳鼻咽喉科 くろかわ まさし 黒川 雅史

鼻血は、鼻のしきり(鼻中隔)の入り口付近の粘膜から出る場合がほとんどです。この部位は、毛細血管が密集している場所であり、医学的にはキーゼルバッハ部位と言われています。

原因としては、鼻をかんだり触ったり、外傷や感冒に伴うものが多く、稀に腫瘍などのことがあります。チョコレートの食べ過ぎや興奮して鼻血が出るという話を皆さん聞いたことがあるかもしれませんが、医学的根拠はないとされています。

皆さん、鼻血が出た際にどのような対応をされているでしょうか？顔を上に向けて首の後ろをとんとんたたいたり、鼻の付け根をつまんだりしていませんか？このような方法は単なるおまじないです。これではうまく止まりません。

出血している場所を圧迫する圧迫止血法が基本となります。鼻の入り口からの出血がほとんどなので、ティッシュがあれば鼻にゆっくり詰めて、小鼻を外側から親指と人差し指で強くつまみ、約 10 分間待ちます。血をサラサラにする薬(ワーファリンやバイアスピリンなど)を飲まれている患者さんは、さらに圧迫時間を長くする必要があります。顔を上に向けるとのどに血が流れてきて、気分が悪くなることがあります。そのため、やや前傾姿勢をとり、のどに流れてきた血は飲まずに吐き出すようにして下さい。このような対応をしても、出血が止まらない時は耳鼻咽喉科を受診するようにしましょう。



<放射線科 CT検査 その1>

放射線科

いのうえ たつろう
井上 達郎

今月と来月、2回分は当院のCT検査について説明します。

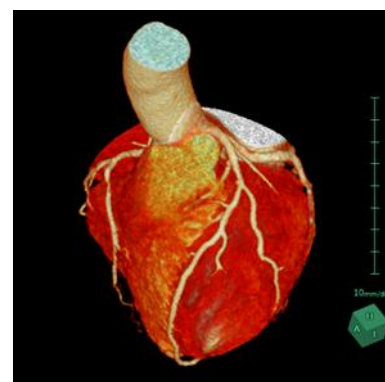
まず、当院のCT装置はシーメンス社製 ディフィニッション AS+ 64列 とパースペクティブ64列という2台のCTで検査を行っています。

2台ともに逐次近似再構成という方法でCT画像を作っています。この方法は以前の当院のCT装置に比べて、撮影部位や撮影範囲にはよりますが、約40%の被ばく減らすことのできる方法です。

胸部のCT検査では列数が増えたことにより、肺の上から下まで約30cmを4.5秒くらいで撮影をしています。最速にすると2.5秒での撮影が可能で、呼吸停止時間が短くなったことで、当院では呼吸停止が困難な患者様が多い中、呼吸によるブレが少ない画像の提供が可能となりました。

撮影した部位はボリュームデータとしてCT装置に記録されます。このデータより様々な方向からの画像を作ることが可能です。様々な方向から画像を観察することにより、治療方針など決定する助けとなっています。

循環器領域では、冠状動脈(心臓の栄養血管)のCTを毎週木曜日の午後に行っています。CT装置を心電図と同期させ取得したデータから、動いている心臓が最も止まって見える画像をつくっています。3D表示した画像や、冠状動脈の様々な方向から画像の観察により石灰化や狭窄部位の同定、画像データより心駆出率を計測して診断の参考としています。



4月の教室案内

*カンガルー教室	● 4月16・23・30日	午後1時～	第1会議室
*禁煙教室	● 4月3日	午後3時30分～	医療情報コーナー
*喘息教室	● 4月17日	午後2時～	第2会議室